

医療・健康

風疹、新型インフルエンザ、結核等への市の対応について

風疹、新型インフルエンザ、結核等への市の対応について

市長 ①医療保険という視点から市報特集号等による広報やジエネリック医薬品希望カードの配布、ジエネリック医薬品利用差額通知の送付等を行っている。

②医療助成費のうち調剤分の平成24年度の全体額は約7千8百50万円だが、ジエネリック医薬品の割合等は把握していない。

子宮頸がんの制圧を目指して積極的な取り組みを

乳幼児医療費助成制度対象の保護者へのジエネリックの推進を

石毛航太郎議員(フオ) ①ジエネリック医薬品の普及についての市の取り組みは。

②乳幼児医療費助成制度の対象となる市民のジエネリック医薬品の利用状況、及び医療費の削減効果は。

▲ジエネリック医薬品希望カード



市報特集号等による広報やジエネリック医薬品希望カードの配布、ジエネリック医薬品利用差額通知の送付等を行っている。

②医療助成費のうち調剤分の平成24年度の全体額は約7千8百50万円だが、ジエネリック医薬品の割合等は把握していない。

子宮頸がんワクチン接種について

山岸真知子議員(公明) ①子宮頸がん検診の細胞診にHPV検査を併用すべきだが見解は。

②予防ワクチン接種率の向上に向けた市の今後の取り組みは。

子どもも・女性

保育園待機児童の対策はどのように進めるのか

常松大介議員(フオ) ①平成24年度並みに待機児童が発生した要因は。

②平成25年度に実施する予定の待機児童数を減らす計画は。

胃がん対策はピロリ菌検査から

山岸真知子議員(公明) ①ピロリ菌無料検査を実施している近隣市の状況は。

②胃がん撲滅のためには、症状が出る前にピロリ菌検査を行うことが重要だが、ピロリ菌検査の実施に向けた検討状況は。

市報特集号等による広報やジエネリック医薬品希望カードの配布、ジエネリック医薬品利用差額通知の送付等を行っている。

②医療助成費のうち調剤分の平成24年度の全体額は約7千8百50万円だが、ジエネリック医薬品の割合等は把握していない。

子宮頸がんはどのように位置づけられたのか。

②副作用についての見解は。

市長 ①法律に基づき予防接種を行う疾病として子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス感染症が新たに追加された。

②ワクチン接種後に失神する可能性を認識しており、接種対象者への個別通知を継続するとともに、予防接種の効果や副反応、健康被害救済制度等について正しい情報提供を行い、保護者が理解し納得したうえで接種してもらえよう努める。

※HPV検査とは

子宮頸がんのリスク要因とされるヒトパピローマウイルスに感染しているかどうかを調べる検査のこと。

胃がん対策はピロリ菌検査から

山岸真知子議員(公明) ①ピロリ菌無料検査を実施している近隣市の状況は。

②胃がん撲滅のためには、症状が出る前にピロリ菌検査を行うことが重要だが、ピロリ菌検査の実施に向けた検討状況は。

目児童館周辺の安全対策は。

市長 ①家事支援ヘルパーを派遣する事業では出生後6か月までのところ、多胎児の場合は1年まで利用できる。また、ファミリー・サポート・センター事業では兄弟など複数の子どもを同じ提供会員に預ける場合、2人目以降は半額になる。

平野ひろみ議員(生ネ) ①市で把握しているワクチン接種による重篤な副反応の事例は。

②ワクチン接種の相談体制は定期接種となつて変わったか。

市長 ①平成23年度に医療機関から2件の報告があり、症状はいずれも接種直後に失神が現れたものである。その後の対応として医療機関で経過観察を行い、いずれも重篤な症状には至らずに回復したとの報告があった。

②これまでと同様に、健康センターの職員が窓口や電話相談により対応していく。

児童をゼロにする取り組みは。

②保育コンシェルジュを必要なら公共施設に配置できないか。

市長 ①現在、認定家庭福祉員を増設に向けて募集を行っているほか、認可保育園の2園ないし3園の新規開設に向けて事業者からの提案を受け付けている。

②的確な情報提供のためには保育に関するさまざまな制度の理解が必須のため、現在は保育課窓口で対応しており、体制をいかに整えるかは今後検討する。

双子などへの多様な子育て支援と児童館の充実を

目児童館周辺の安全対策は。

市長 ①家事支援ヘルパーを派遣する事業では出生後6か月までのところ、多胎児の場合は1年まで利用できる。また、ファミリー・サポート・センター事業では兄弟など複数の子どもを同じ提供会員に預ける場合、2人目以降は半額になる。

日向美砂子議員(生ネ) ①待機児童解消のための方針は。

②保護者や子育て支援団体等の意見を吸い上げる仕組みは。

市長 ①平成24年度に1園、25年度に4園の認可保育園を開設したが、待機児童数の大きな減少には至らなかったため、東部地域での認定家庭福祉員の募集及び認可保育園の新設提案の受け付けを開始した。

②子ども・子育て審議会が、子どもの保護者及び子ども・子育て支援に関する事業者等と連携されることになる。

鈴木保育園の廃園は当面見送りせよ

橋本久雄議員(虹ひ) ①今後の待機児童数の想定は。

②待機児童ゼロの見通しが立つまで廃園を凍結できないか。

市長 ①転入者の増加といった流動的な要素等があり今後の予測は困難だが、今年度に行うニーズ調査の結果等を踏まえながら、必要な保育サービスを提供できる基盤整備を図っていく。

新設された認可保育園(花小金井にこ保育園)



市長 ①4月1日時点の待機児童数174人のうち、11人が6月開設の花小金井にこ保育園に入園している。

②教育人口推計等から平成30年の入会児童数は1千84人と推計されるが、今後、子ども・子育て支援事業計画を策定する中で把握を行いたい。体制については今後、国が定める基準等を踏まえて検討していく。

公園用水

七小東公園の危険箇所の改善とバリアフリー化について

虹川 浩議員(公明) ①公園内に敷設されたタイルや遊具等の境目部分がむき出しになり危険だが、改善できないか。

②公園内のバリアフリー化についての考えは。

市長 ①園路側面の段差や遊具の基礎の露出等を確認しており、改善策を検討、実施していく。

②平成24年度に公園の出入り口やトイレなど施設のバリアフリー化に関する設置基準を条例で定めており、引き続き、安全安心で誰でも快適に利用できる公園づくりに努めていく。

緑の担い手をふやすために多岐にわたる手法を

津本裕子議員(公明) ①全日本花いっぱいこだいら大会以降のボランティア参加の広がりをどう評価しているか。

②緑の創出のために活動する

市民団体を支援すべきでは。

市長 ①公共施設でのプランターの植えかえなどを多くの市民の協力を得ながら展開しており、緑と花いっぴいのまちづくりの担い手の輪は着実に広がっていると認識している。

②市民や団体にまちづくりの担い手として協力してもらう仕組みづくりについて、引き続き検討を進めていく。

今後の用水の活用計画と整備は

堀 浩治議員(政和) ①用水路の今後の活用計画は。

②現在市ではどのように整備を行っているか。

市長 ①小平市用水路活用計画における用水路の保全または転用の活用区分に基づき、地元の人と調整し活用を図っていく。

②用水路活用計画等に基づき郷土の歴史を重視し、生物多様に配慮しながら、用水路の親水性や景観の向上など事業効果の高い場所を選定し、自然を生かした整備を行っている。

市報特集号等による広報やジエネリック医薬品希望カードの配布、ジエネリック医薬品利用差額通知の送付等を行っている。

②医療助成費のうち調剤分の平成24年度の全体額は約7千8百50万円だが、ジエネリック医薬品の割合等は把握していない。

子宮頸がんはどのように位置づけられたのか。